

流山 九条ニュース

「九条の会・流山」事務局

山田 7144-3993 石林 7154-7511

三原 7152-6559

2011.11.1 NO.68



「九条の会・流山」HP : <http://www.nagareyama9.org/>

メール : info@nagareyama9.org

憲法審査会が動き始めた

10月20日民自公などの党は憲法審査会委員の選任を強行しました。2007年に採決された国民投票法（改憲手続法）は当時自公政権の強行採決に民主党も反対したのに、今度は一転して、ねじれ国会を理由に推進に動き始めました。この審査会は改憲原案を提出することが出来るものであり、一步改憲に向かって進んだという警戒が必要です。

大震災からの復興が遅々として進まない中で、改憲への策動だけに熱心というのは国民の気持ちからあまりにもかけ離れていませんか。

カダフィ死亡でリビアは？

42年間のリビアの独裁者カダフィの死亡が伝えられました。憲法もない独裁体制でまるで王制のような専制と贅を極めた一族の生活をしてきたカダフィの末路。単純に言えば独裁崩壊にバンザイと叫びたいところでしょうが、あまりにも問題があります。

今後の日本の国際的な立場を考えるためにも掘り下げる必要がありそうです。そのいくつかを挙げてみたいと思います。

①なぜカダフィの独裁がこれほど長く続いたのか。その最大の原因？は資源、すなわち石油です。リビアはアフリカ最大の産油国であり、米英をはじめ大国がこぞって、彼に裏で媚を売ってきたのです。非民主的な国家でテロを繰り返す国際社会の暴れ者として表向き非難しながら、一方で資源欲しさに妥協し、屈してこれを許してきたのです。そして彼はこれらの国に対抗する反米反欧の旗手のように振舞いながら、別項のように巧妙に操っていたのです。②NATOの介入。国民からも孤立している政権を維持する恐怖政治。それを支え

る親衛隊などの軍事力は、豊富なオイルマネーを使って外国から集めた、金目当ての傭兵達。これに対抗する国内の反政府運動支援として行った積極軍事介入が不問にされようとしています。③NATOなど外国からの支援で民衆の中に大量の武器。ばら撒かれた、その武器による殺し合いが続く危険性があります。④民族対立。ユーゴ、アフガニスタンなど、多くの国は多数の対立する民族を抱えながら国家を維持してきました。独裁的な権力で抑えてきた対立が、政権崩壊とともに再燃して新たな悲劇も生まれています。⑤列国の利権争い。すでに石油利権を狙った食い込みの競争が、激化しており、国内の対立を煽りかねません。

カダフィと協力するCIA（CNN報道）

米中央情報局（CIA）とカダフィ政権下のリビア情報機関との緊密な関係を示す文書がリビアの情報機関本部で見つかった。同文書からは、リビアが大量破壊兵器開発計画を放棄した2004年以降、リビアと西側諸国の情報機関が協力関係にあったことがうかがえる。

CNNが3日にリビア情報機関や国際人権団体ヒューマン・ライツ・ウォッチから入手した文書によれば、リビアは、カナダや米国、欧州で反カダフィの活動に関与していたイスラム過激派とみられるグループに関心を持っていたのに対し、米英はリビアが持つ国際テロ組織アルカイダに関する詳細情報に関心を寄せていた。また、2000年代半ばにCIA長官を務めたポーター・ゴス氏と元リビア対外情報局長のムーサー・クーサ氏との連絡記録も残っていた。

見つかった文書からは、西側諸国がテロ容疑者をリビアなどの第三国に移送し、現地で尋問を行っていたことも明らかになった。

